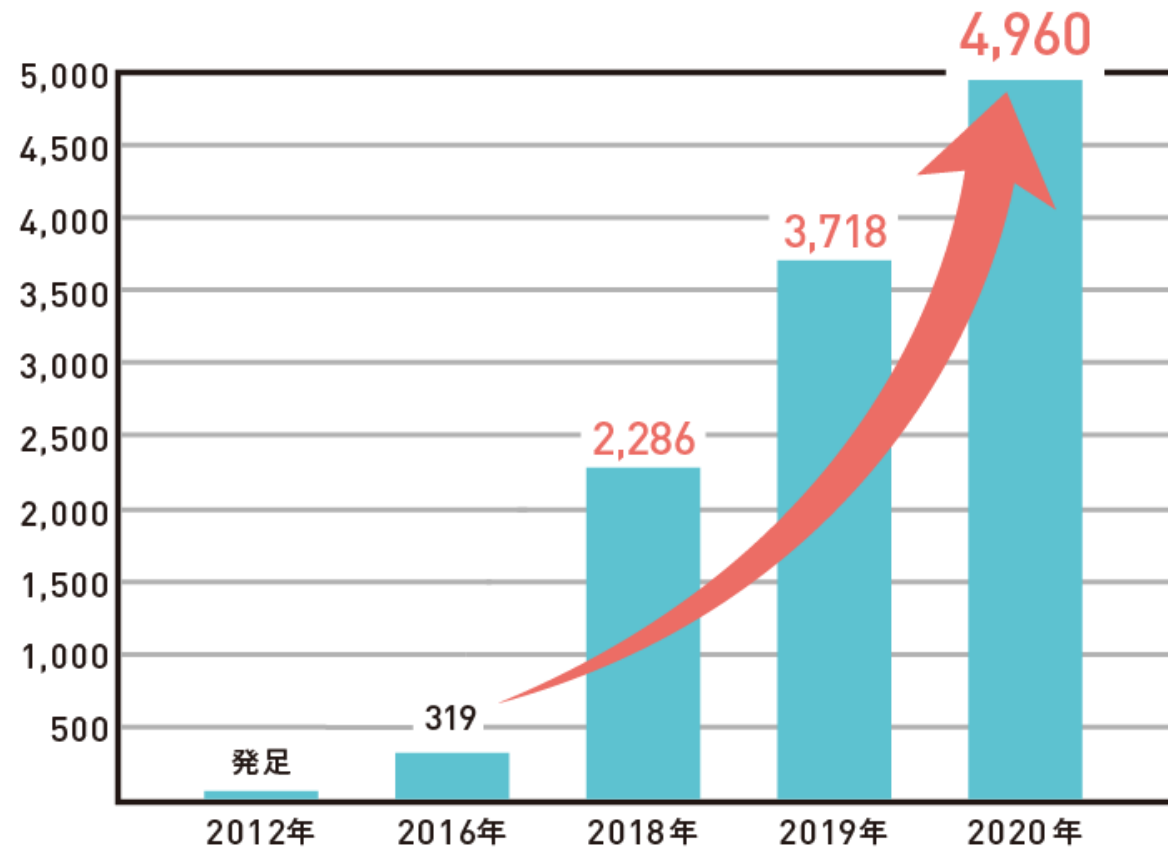


こども食堂とは

○子どもを真ん中に置いた多世代交流の地域の居場所



○2020年時点で全国に4,960箇所（前年比1,200箇所増）



価値は多世代交流にあり

にぎわいづくり 地域活性化

貧困の連鎖
を断ち切る

多世代
交流

孤食対応

高齢者の健康
づくり

子育て支援
虐待予防

佐藤文俊「これからの10年 ～地方分権と地方創生～」(『地方自治』869号)

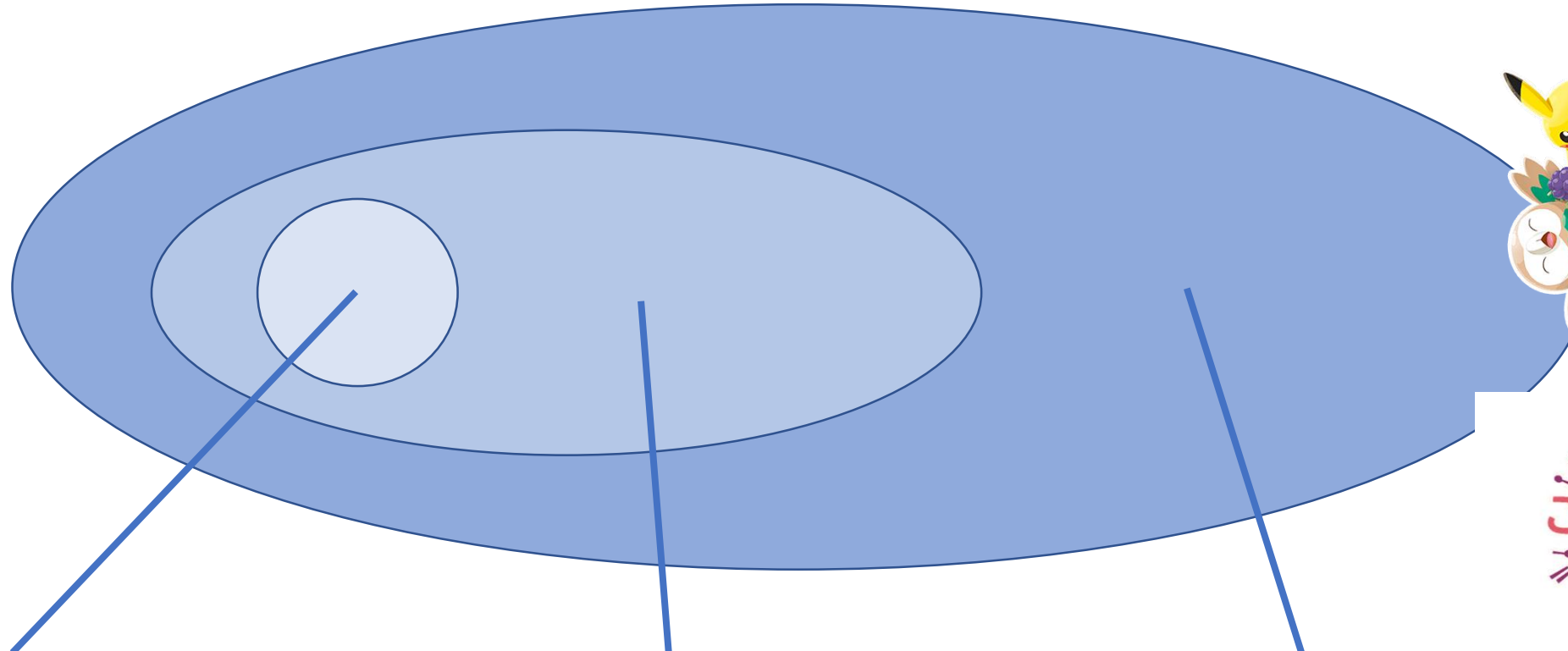
さらに地域に所在する様々な住民組織や団体、企業などとの連携・協働も一層重要になってくるだろう。

住民や住民組織による活動はまさに多種多様であり次々に新しい動きも出てきている。

例えば地域の暮らしを守るために関係者が参加して協議しながら地域課題の解決に向けて取り組みを実践する地域運営組織や子供の貧困対策からはじまって地域における世代を超えた交流の場へと進化を見せる子ども食堂などは近年目に見える広がりを見せている。このように動きは、自治の原点に立ち返るものとみることもできる。

地方自治体はこれらを行政の下請け、補完として便宜に使うということではなくて、地域づくりのパートナーとしてそれぞれが自主性、自律性を十分発揮して活動できるような環境づくりに努めることを心がけるべきだろう。

具体的に地方自治体がこれとどのような関係を持つかについては様々な形があってよいが、少なくとも地方自治体はこのような住民等の活動に敏感であってほしいと思う。



子どもの貧困対策

- ・つながりの貧困
- ・体験の貧困
- ・予防としての地域づくり

子育て支援

- ・親がほっとできる
- ・ママ友ができる
- ・子育てしやすい地域づくり
- ・虐待予防

地域づくり

- ・地域ににぎわいを
- ・無縁にあらがうつながり
- ・高齢者等の活躍の場
- ・誰も取り残さない地域づくり